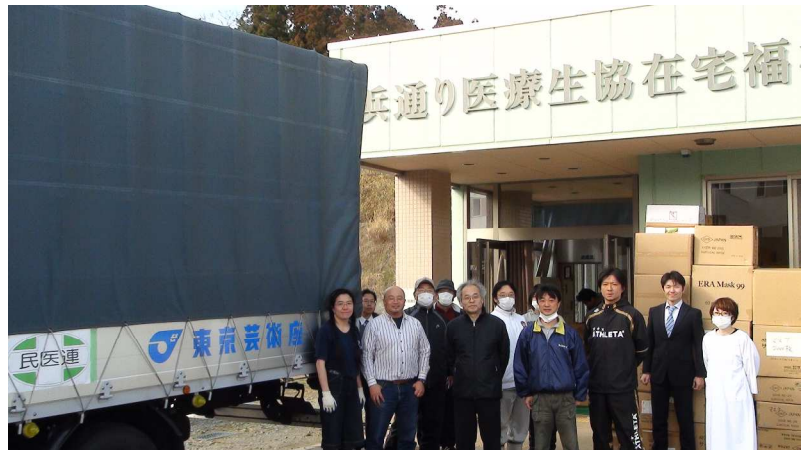


小名浜生協病院へ東京芸術座のトラックが走る！！

3月23日、被災地への支援物資搬送でいわき市小名浜生協病院に行ってきました。小名浜には「アクアマリンふくしま」という水族館と「ららみゆう」というショッピングモールが港にあります。被災状況の確認のため立ち寄りしましたが、惨状には驚きました。両方の建物は外見上はありますが内部は完全に崩壊状態で廃墟のようでした。津波が来て一瞬のうちに壊されたと思われます。200台以上（もっと多いかもしれません）駐車できる



できる駐車場は津波にさらわれた車が折り重なるように堆積し、地面は液状化現象が起こったのだらうと思われれますが至る所で煉瓦が散乱し、砂が浮き出ていました。いわき市街（小名浜地区）は倒壊した建物などは無く（ブロック塀が至るところで倒れていましたが）津波の被害を受けたとは感じられなかっただけに港の現状はショックでした。街は電気はきているものの水道が回復していないためかなり大変で、食料も行き渡っていない状況でした。（東京民医連 吉田 孝喜）

現地支援レポート（東京民医連 柳原 晃）

24日：午後は湾岸の北浜地域巡り。地域巡りは今回初めて今日から始めた。自動車は塀に乗り上げている。船は陸に上がっている。家の二階だけが月極め駐車場に流され、取り残されている。あたりは魚の腐った匂い。そういう中で沢山の人が暮らしている。給水車にもマーケットにも人の列。ハンドマイクと上り旗で宣伝している間に、看護師のペアが二組、個別訪問。どこでも喜ばれて上がり込み、訪問看護になる。県営住宅では自治会の役員さんがでてきて、今夜の集会で坂病院からのインホームーションとして流すからと打ち合わせになった。坂病院は本当に信頼されている。



25日：午前中は被災地域巡り。行き先は東塩釜駅の北方の地域、床下浸水のところ。まだ給水車に頼っているところと昨日から水道が通じたところが混在。プロパンガスなので風呂を初めて沸かしたと喜んでいて。家族がいて一人暮らしがない。街のコミュニティが健在で、どこそこの食料品店が開いたなど街角で口コミがある。東京では死滅した風景、ちょっと感動。午後は多賀城市の沿岸地域を訪問。6人で70件訪問、40件と対話。塩釜市より被害甚大。まだ電気もついていないよう。一人暮らしの高齢者も多い。一軒の訪問が長い対話になった。インスリンのない糖尿病患者や高血圧で薬のない人も。老夫婦で避難せず、押し入れで暮らしている人も。ライフラインの復旧が急務だ。